



上越支部 稲田道場 所属

T a i s h i K o b a y a s h i

小林 大維志 (コバヤシ タイシ)

### 『感謝と決意』 小林 大維志

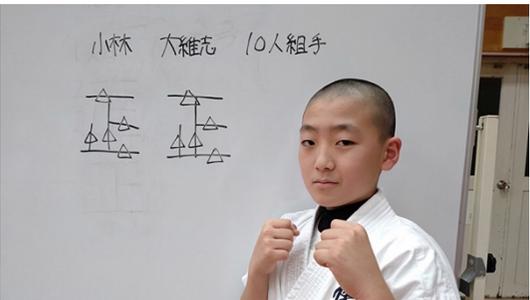
この度は、昇段のお許しをいただきありがとうございます。  
一つの目標を達成することができ、中川代表師範、岡田師範のご指導に御礼申し上げると共に、道場の先輩方、仲間達に感謝します。そして、心弱い私に厳しい言葉をかけてくれ、応援してくれた両親。この場を借りて言います。いつも支えてくれて本当にありがとうございます。

私が空手を始めたのは五歳の時。家の近くに道場が出来ると聞き、体験会に参加しました。幼かった私は道場に入るなりその迫力に圧倒され逃げ出す始末。それでも体験会が終わる頃には、空手をやってみたいという気持ちが高まり入門を決めました。

私のここまでの道のりは平坦なものではありませんでした。厳しい稽古や痛みに気持ち負け、稽古に行きたくないと言いた時もありました。やめたいと言った時もありました。そんな時、岡田師範は稽古の後に時間を作ってください、私の話を聞いてくださいました。そこで気持ちを切り替えることができ、前に進むことができたと思っています。昇級につれ難しくなる型や組手も、出来た時の嬉しさ、達成感があったからこそ、ここまで頑張ってきたと思っています。

そんな私も、最近の大会ではなかなか結果を残すことが出来ずにいました。無様な結果に何度も悔し涙を流しました。それに対し好成績を残す仲間達。今までの私ならそこで諦め、くじけていたと思いますが、その気持ちを稽古で補うことで自信に変え、今年の大会では初めて優勝することが出来ました。今までに味わったことのない達成感と喜びはこの先、絶対に忘れることはないでしょう。どんな結果でも諦めず、努力を重ねれば結果に結びつく。そう学びました。私が学んだ思いは今後、後輩達に伝えていきたいと思っています。

私が常に意識している道場訓があります。それは「一つ、吾々は、生涯の修行を空手の道に通じ、極真の道を全うすること」です。日常生活の中でも空手の精神を活かし、永遠に上を目指し努力する。という意味が、私に相應しいと思うから



です。空手の稽古で学んだことは、私の日常生活に生きています。春には中学に進学しますので、今後は文武両道を目標とし、さらに上を目指し努力し、謙虚な気持ちと何事にも動じない強い体と心を鍛えていきたいです。これからもご指導よろしくお願いいたします。押忍。